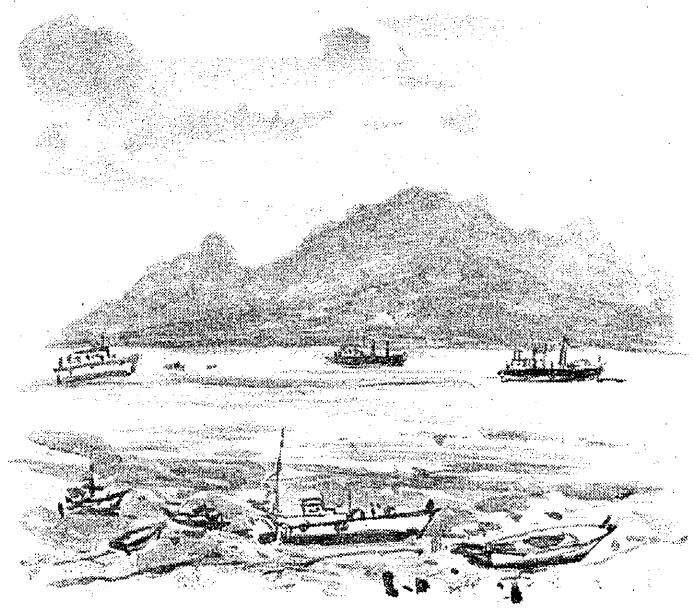
山のある風景



有明海をはさんで南荒尾から雲仙を望む。晴天の日にはくっきりとその山岳美が見え、東の玄関である島原の街も遠望できる。春のツツジと冬の霧氷に代表される美しい自然、山懐に湧く温泉や、白い湯煙にけむる地獄など、雲仙は国際観光地にふさわしい風情をもっている。

雲仙

画　姉川良男

歴史にまなび前進

三池主婦会結成35周年記念の集い

三池主婦会結成三十五周年記念の集いが五月二十二日午前十時から荒尾市労働会館で開かれました。主婦会員をはじめ、主婦会の元執行部・OBの皆さんなど、雨の中にもかかわらず、百二十人が参加して熱気にあふれた集いでした。

藤田事務局長の司会で、集いの第一部は『炭婦協のうた』の全員合唱ではじまりました。

主婦会を代表して平川会長があいさつに立ち「たたかいのさなかに主婦会結成三十五周年記念の集いを開き、身のひきしまる思いです。主婦会OBの皆さんが一九五三年、三井資本の悪らつな嫌がらせや妨害をはね返し、七月に三池炭婦協を結成されて三十五年になります。働く者の生命やくらしを守り、平和を築く運動を進めるために、生活革命運動を提起され、家族ぐるみでたたかうことを指導して下さいました。私たちは三池主婦会魂を受け継ぎ、今回の七百三十人の指名解雇にも等しい首切り合理化を認めることなく白紙撤回まで、組合とともに明日（二十三日）から第一波の座り込みに入り頑張ります。主婦会員としての誇りを持ち、諸先輩のたたかいの歴史に学び、首切り合理化反対のたたかいや主婦会運動を前進させていきます」と決意を述べました。

続いて、田口三池労組書記長が「本来ならば組合長が参りましてごあいさつ申し上げるところですが、炭労中央委員会出席のため代りましてごあいさついたします。

昭和二十八年七月二十日、三池主婦会が結成されてから三十五年を迎えました。長い歴史ですが、省りみますと三池闘争、CO闘争、有明災害、合理化問題と、いろんなたたかいを主婦会は組合と一体となってたたかってこられ、その支えがあればこそ三池労組の火が燃え続けています。

いま、一般職六百十人、総数七百三十人の大量の首切り合理化が出されています。三井石炭、三井資本の悪らつな首切り合理化をはね返し、労働者の雇用、生活を守るために組織の総力を結集し、一糸乱れぬ団結で、首切りを絶対に許さないたたかいへ、三池労組、主婦会、退職者の会はじめ多くの支援を得てともにたたかう決意です」とあいさつされました。

このあと、今吉総評主婦の会副会長、政治局を代表して酒井熊本県議、初代主婦会長の五島さんから、三十五年の主婦会活動にふれながら、それぞれ連帯のあいさつがおくられました。

続いて来賓の方々の紹介があり、主婦会の歴代の三役・支部長さんの紹介、政治局などの紹介と続いて、祝電・メッセージが披露され記念講演に移りました。

『三池主婦会三十五年のあゆみと今日の石炭情勢』と題しての九大教授・小島恒久先生の記念講演は、「合理化闘争のど真中で開かれる結成三十五周年の集いは、時宜を得た集会で、意義深いものがあります。三池の主婦会、三池労組の歴史は、私たち自身にとっても同じ歴史を感じます。三池闘争前から三池での学習会に参加し、三池闘争がはじまったころは四山の学習会に参加し、ホッパー決戦のあとは、ビニール小屋でのホッパー大学などが開かれました。資本主義とは何かを身をもってまなばされ、三池闘争こそが資本主義とのたたかいだ……と。資本主義の本質、冷酷で、労働者に犠牲を強いていくのかをまなばされました。三池の主婦会の歴史は合理化に対するたたかいの歴史であったといっていいでしょう。発足のときから文字通り会社の妨害をはね返して三池炭婦協が結成されました」と、主婦会があゆんできた歴史をひもとき、その中で資本の攻撃・政府の無暴な政策によって、いま石炭と農業にしわ寄せがかけられている情勢が語られ、第一部を終わりました。

講演のあと第二部に移り、懇親交流会が催され、乾杯の音頭を熊本県評主婦の会・渡辺事務局長にとっていただき、会食をともにしながら多くの来賓や先輩、OBの方から暖かい励ましのことばをいただきました。そのいくつかを別項にご紹介いたします。

主婦会のたたかってきた歴史の重みがそれぞれの皆さんから語られる中で当時が思い起こされ、ハンカチで目頭をおさえる場面がしばしばでした。集いのフィナーレは『つわの花合唱団』による歌三曲（『伝言』『朝鮮はひとつだ』『炭鉱の娘』）続いて『三池の主婦の子守り歌』『がんばろう』を全員合唱したあと、こぶしをあげて二十三日からの座り込みなどのたたかいへ向けての決意を込めて、先輩OBと主婦会員一体となっての「頑張ろう」の唱和で盛会のうちに幕を閉じました。また、別室二階では子供から会員までのたたかいの作品展を開き、多くの人びとに楽しく見ていただきました。

（主婦会事務局・記）

お礼

この〝記念の集い〟に、お祝いや激励のメッセージ、激電、ご芳志をいただきました。心からお礼を申し上げます。

姿見

三十五周年と合理化

大牟田ブロック　田中チヅ子

主婦会結成三十五周年を迎え、緑ケ丘社宅での生活がなつかしく思い出されます。

あの歴史的な三池闘争の中で、主婦会の助け合いがいかに心強かったかはかりしれないものがあります。この主婦会結成にあたっては、歴代会長、役員諸先輩のなみなみならぬ勇気ある行動に感謝しながら三十余年、主婦会の一員として参加してまいりました。

振り返ってみれば、三十余年間にはいろいろな出来事がありました。千二百名の指名解雇、炭じん爆発、CO闘争など数えればきりがないほど諸問題をかかえ、それに向かって組合員、主婦会員、子供達と一致団結してたたかってまいりました。

右も左もわからないまま、乳飲み児を背負い、私達の権利を守るため主人達を支え、主婦としての地位向上をめざし、学習会、デモ、炊き出しなどにできる限り参加しなければならない知識も得たと感謝しています。その子供達もやっと成人して主人の定年退職を来年に控えて、いろいろと生活設計をしていた矢先、労働者にとってこの上ない厳しい合理化提案に家族ともども戸惑いと怒りが交錯しています。

他の企業では定年延長が実現しているのに、定年の〝前倒し〟などという前例のない会社のやり方は、三井の本性を表わしたもので、労働者無視の態度に私達も家族で支え合って対処しなければならないと思います。

子供達も生まれた時から三池闘争の中で育ち、デモや裁判傍聴にもついてくるし、普通では考えられない頑張ってきました。

励ましのことば

摘録

木村ケイさん

日本婦人会議大牟田支部長

三池主婦会結成三十五周年おめでとうございます。結成三十五周年を記念して、詩吟を作りました。

「夫（つま）をたすけ、子らを守りて三十有余年、抵抗の花みごとに開く、同志一同に会しと喜びをともにす、語り伝えて永遠（とわ）にたたえん、三池主婦会の心」

蒲原ふじえさん

元本所支部長

三十五年おめでとうございます。ひと言に三十五周年といいますが大変な年月でした。喜びも悲しみも、苦しいこともあったけれど主婦会員でよかったと思っています。三池闘争のときには何万というオルグを受け入れ、宮原分会でも百三十人の賄いを朝・昼・晩と受け入れました。今度の合理化しっかり頑張って下さい。応援します。

岡本たつえさん

元宮浦支部長

ここに立つと涙があふれます。本当に厳しい中で、ご苦労の多い皆さんに、どう言っていいのか……。私もよき先輩のもとで十年間執行部をやらせていただきました。今度の合理化は大牟田、荒尾の街をつぶすと思われます。お父さんを支え頑張って下さい。

大野ひろみさん

大牟田ブロック

昭和三十八年爆発の年に結婚しました。おばさんから炭婦協結成の苦労話を聞くことがあります。この苦労の積み重ねが、主婦会の団結をつくってきたのだと思います。今度の合理化について新労組のある奥さんは「国のすることだけんしょんなかたい」といっていますが、私はどうしても許されません。決意をあらたにして勝利の日まで頑張ります。

原口節子さん

大牟田ブロック

私は昭和四十六年に結婚しましたが、結成の頃はまだ子供でした。三池闘争の折、苦労している両親を見てきました。しかし、その苦労が自分自身の問題になっています。いま、炭鉱が重大な危機に立たされていますが、すばらしい三池主婦会の歴史を築いてこられた先輩の皆さんに負けないようにこれからも頑張ります。